

平成29年度 校内研究計画

山梨市立山梨北中学校

1. 学校課題

平成28年度全国学力状況調査による本校の結果では、「国語A」は山梨県よりわずかに上回ったが、全国とはわずかに下回った。比較して、ほとんど差がなく同等の力がある。「国語B」では、山梨県・全国ともにやや下回った。しかし、その差はわずかなもので、ほぼ同等の力がある。設問によっては、正答率が全国や山梨県を上回っているものもある。「数学A」では有意差はないが、山梨県・全国ともにやや下回った。「数学B」では、山梨県・全国ともに上回っているものもあった。しかし、設問によっては、正答率が全国や山梨県を下回っているものもあった。

学習の基盤となる「学習習慣」「生活習慣」、学習意欲を支える「規範意識」「自尊感情」については、全国と比較して高かった。また、この調査で「道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいた」の値が全国平均を大幅に上回った。しかし「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思うか」の値は県と比較すると低かった。今後も、各教科への関心や意欲を高め、思考・表現活動を通して各教科の力を高めていくよう授業改善を図る必要がある。

2. 研究主題

自ら学ぶ力をつける学習指導に関する研究
～ 主体的・対話的で深い学びによる授業改善 ～

3. 主題設定の理由

本校は、平成28年度までの3年間、山梨県教育委員会「授業改善プラン実践事業推進校」の指定を受け、確かな学力の向上と定着に向けての研究の機会をいただいた。平成26年度は初年度として、「確かな学力の向上をめざす学習指導に関する研究」を研究主題とし、これまでの研究を生かしながら、言語活動に視点を当て、サブテーマを「～言語活動の充実による授業改善～」として、各教科において取り組んだ。

2年目の一昨年度は、前年度の研究主題「～言語活動の充実による授業改善～」から「～思考活動の充実による授業改善～」とし、確かな学力の向上を目指し、言語活動を通して「思考力」を高める研究を深めるべく取り組んできた。

3年目の昨年度は「授業改善プラン実践事業推進校」の指定、最終年度としてこれまでの研究を生かし、さらに学力向上に向けて研究を進めてきた。そこで、サブテーマを「～思考・表現活動の充実～」とし、思考した考えを、より相手に伝わる方法で発信（表現）していく活動も取り入れた研究を進めてきた。

3年間の取組を通して生徒たちの学力の向上が数値にも表れた。毎年4月に全校で実施してきたNRT調査結果によると、平成26年度入学生では5教科とも偏差値が数ポイントずつ上がってきた。また、県学力把握調査、全国学力学習状況調査でも正答率のポイントが上がっている。

現在、新学習指導要領について見直しが行われ、12月21日中央教育審議会より、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策について（答申）」が取りまとめられた。新しい学習指導要領等の改善の方向性として、次の6点が示されている。

- ①「何ができるようになるか」
- ②「何を学ぶか」
- ③「どのように学ぶか」
- ④「子供一人一人の発達をどのように支援するか」
- ⑤「何が身についたか」
- ⑥実施するために何が必要か

これらの考え方について、全職員が校内研修や多様な研修の場を通じて理解を深めることができるようにすることが重要とされている。①については、「生きて働く知識・技能の習得」「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」を、この3年間の研究の中で取り組んできた。

よって、平成29年度については上記の③「どのように学ぶか」の更なる学びの質の向上に向けた研究・取組を行っていく。そこで次の「中等教育資料4月」中央教育審議会答申を受けて、今回の改定が目指す学びの質の向上に向けて、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業実践について校内全体で取り組んでいきたいと考える。

「子供たちは、主体的に対話的に、深く学んでいくことによって、学習内容を人生や社会の在り方と結び付け深く理解したり、未来を切り拓くために必要な資質・能力を身に付けたり、生涯にわたって能動的に学び続けたりすることができる。こうした学びの質に着目して、授業改善の取組を活性化しようとするのが、今回の改訂が目指すところである」

「中等教育資料4月」中央教育審議会答申

4. 研究の具体的取組内容と方法

(1) 授業形態の統一「山北スタイル」(思考力を高める授業形態)

<p>【教師】 ①課題提示の工夫</p> <p>↓</p> <p>②自力解決支援</p> <p>↓</p> <p>③相互解決・展開</p> <p>↓</p> <p>④評価・まとめ</p>	<p>・生活等と結びつく課題</p> <p>・意欲につながる課題</p> <p>・生徒自ら思考・判断・表現するための支援</p> <p>・ペア、グループ解決、全体解決</p> <p>・評価(生徒・教師)</p> <p>・まとめ(定着と繋がり)</p>	<p>【生徒】 ①課題の把握(的確な)</p> <p>↓ ※見通し</p> <p>②自力解決(記述ノート等)</p> <p>↓ ※活用力</p> <p>③相互解決(学び合い)</p> <p>↓ ※協働的学習</p> <p>④まとめ(学習整理)</p> <p>※振り返り</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(2) 基礎学力定着の取組

- ①自主学習ノートの作成
- ②スコラ手帳の活用(書く習慣・時間を意識する習慣・考える習慣)
- ③朝学習 → 読書活動の定着、「書くこと」の定着「作文」の実施
- ④山北サポートタイム → 基礎基本の定着、年間10回実施

またこのほかに、定期テスト前には放課後「自学の時間」として質問を受けての指導や、自主学習をする時間を確保している。夏休みには、「夏季学習会」として、基礎学習や個別の課題を指導する時間を各学年・各教科で設けている。

- (3) 教材教具の開発・工夫
- (4) 教科に関わる掲示物の工夫
- (5) 授業改善プランを生かした研究実践

年間校内研修計画

研究主任 奥山寿夫

研究テーマ	教科領域等	担当者	学年	授業の時期	T・C要請
主体的・対話的で深い学びによる授業改善	国語	未定	年	11月頃	
主体的・対話的で深い学びによる授業改善	社会	未定	年	11月頃	
主体的・対話的で深い学びによる授業改善	数学	未定	年	11月頃	
主体的・対話的で深い学びによる授業改善	英語	未定	年	11月頃	
主体的・対話的で深い学びによる授業改善	理科	未定	年	11月頃	
保健体育 研究授業	保健体育	宮本 武彦	1年	11月	○
道徳・学活 研究授業	道徳	宮本 武彦	1年	1月	○